

IV章 県立高等学校改革後期実施計画の推進に当たって

1 社会の変化に対応した高等学校づくりの推進

県立高等学校は、時代のニーズや地域からの要請に応じて設立され、その後、統合や学科改編などの変遷を経て、現在に至っています。社会の急激な変化や生徒数の減少により高等学校の小規模化はさらに進み、今後は、これまで高等学校が地域で担ってきた役割を尊重しながらも、その在り方について見直しが必要となってきました。県教育委員会は、後期実施計画においても、地域の状況の把握に努めるとともに、所在市町村、地域住民、保護者に対して、改革の方向性について丁寧な説明を行い、生徒の資質や能力を伸長させる魅力ある高等学校とするため、関係者ととともに考え、新しい学校づくりに有益な意見を取り入れながら、より良い高等学校づくりを進めていきます。

(1) 県立高等学校改革の具現化に向けて

統合等に当たっては、県立高等学校改革懇談会を実施し、統合等の趣旨や学校の方向性について丁寧に説明するとともに、さらに魅力ある高等学校となるよう意見を聴取します。

その後、県教育委員会及び統合対象校の教職員等による教育内容検討委員会において、教育内容等の具体的な検討を進めていきます。

更に、統合校の教育活動の検討状況については、関係者に対し説明を行うなど、情報発信に努め、意見を聴取しながら検討を進めていきます。

再編整備のない学校においても、校長のリーダーシップのもと、高等学校改革を推進する校内組織等を中心として、後期実施計画期間中の改革の方向性と想定される学級数を踏まえながら、魅力ある高等学校づくりを、教職員はもとより、地域とともに推進していきます。

(2) 本県の高等学校教育の充実に向けて

II章1で提示した高等学校教育の質的向上と、II章2で提示した再編整備を含めた教育環境づくりは、県立高等学校改革の両輪として、表裏一体で推進していく必要があります。県教育委員会は、前期実施計画及び後期実施計画を踏まえながら、県立高等学校の教育内容の充実のための施策をさらに推進します。

また、本県には17の私立高等学校があり、それぞれ建学の精神に基づいて特色ある教育活動を行っています。本県の高等学校教育の充実に向けて、これら私立高等学校も含め、公私が連携して体制の構築を図っていく必要があります。このため、今後、生徒数が減少する中での本県全体の募集定員や公私協調の下での学校の在り方などについて、公私立協議会等の場を活用し、私立高等学校と協議しながら検討します。

2 次期県立高等学校改革計画策定に向けた継続的な検証

次期県立高等学校改革計画の策定に向け、以下のとおり地域の状況等を見据えながら、前期実施計画及び後期実施計画の進捗状況や成果、課題について適宜検証を行うとともに、地域の関係者から意見を丁寧に聴取していきます。

- 後期実施計画期間及び期間後の中学校卒業見込者数の推移や各地区の少子化の状況等を注視していきます。
- これまで再編整備を行った学校も含め、すべての高等学校について、志願動向や特色化と魅力化の進捗及び地域との連携などの各校の取組状況を注視していきます。
- 本県を取り巻く様々な社会環境の変化や、東日本大震災・原子力災害からの復興・創生の状況を注視していきます。